

(2) DiGJAPAN!

訪問地の組み合わせは、福岡都心部—北九州が最も多いが2割程度で、以下、北九州、福岡都心部—北九州—別府、北九州—下関、福岡都心部—北九州—別府—由布院—大分など、主に福岡県と大分県を中心に九州北部を訪問するパターンとなっている。

図表3-2(30) 訪問パターン

順位	訪問パターン	サンプル数	構成比
1	福岡都心部—北九州	16	23.5%
2	北九州	7	10.3%
3	福岡都心部—北九州—別府	4	5.9%
4	北九州—下関	3	4.4%
4	福岡都心部—北九州—別府—由布院—大分市内	3	4.4%
6	福岡都心部—太宰府—北九州	2	2.9%
6	福岡都心部—北九州—熊本県	2	2.9%
6	福岡都心部—太宰府—北九州—下関	2	2.9%
6	福岡都心部—北九州—下関—長崎県	2	2.9%
6	下関	2	2.9%
6	福岡都心部—北九州—別府—由布院—大分市内—日田	2	2.9%
6	福岡都心部—北九州—別府—長崎県	2	2.9%

n=68

2. 各種データによる宿泊分析

(1) Agoda 宿泊数データ

九州・下関における総宿泊数を見ると、北九州は4位、下関は10位に位置する。

地域ごとの連泊数では、北九州は2泊が3割、3泊が1割を超えており、福岡都心部に近い比率となっている。下関は1泊のみの割合が高い。

図表3-2(31) 宿泊数(再掲)

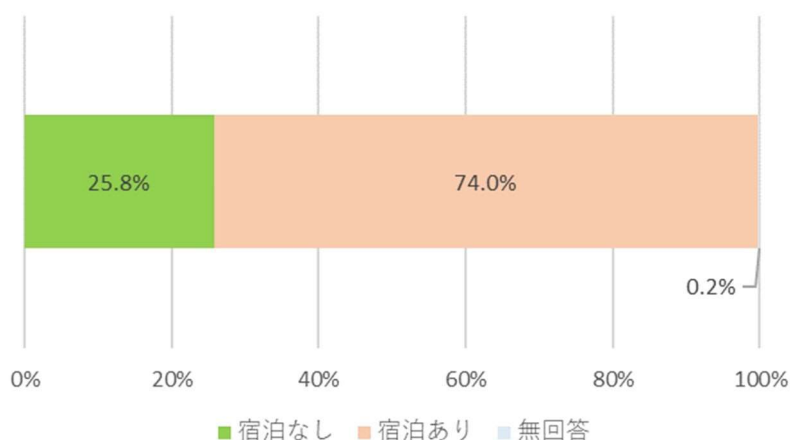
順位	観光地名	総宿泊数	構成比	平均	1泊	2泊	3泊	4泊以上
1	福岡都心部	26,910	70.9%	1.80	44.3%	36.7%	15.2%	3.9%
2	由布院	3,753	9.9%	1.08	92.6%	6.7%	0.6%	0.1%
3	長崎県	1,891	5.0%	1.39	69.2%	24.1%	5.8%	0.9%
4	北九州	1,568	4.1%	1.63	52.7%	33.9%	11.6%	1.9%
5	別府	1,486	3.9%	1.24	80.2%	17.0%	1.8%	1.0%
6	佐賀県	711	1.9%	1.34	73.0%	20.6%	5.5%	0.9%
7	熊本県	565	1.5%	1.28	77.3%	18.0%	3.9%	0.9%
8	鹿児島県	366	1.0%	1.56	59.8%	28.6%	8.1%	3.4%
9	大分市内	349	0.9%	1.65	55.7%	33.0%	7.5%	3.8%
10	下関	161	0.4%	1.36	76.3%	16.1%	4.2%	3.4%

n:37,995 単位:泊

※北九州市・下関市を訪れた個人観光客に限った数値ではない。

(2) アンケート調査（北九州市・下関市を訪れた個人観光客）

北九州市・下関市の来訪者のうち、北九州・下関での宿泊した人は7割を超えるが、入出国港の違いにより、訪問パターンが異なるため、宿泊についても入出国港別に分析を行った。



図表3-2(32) 北九州市・下関市来訪者の宿泊の有無

a) 福岡空港・博多港入出国

宿泊パターンから訪問パターンを見ると、福岡都心部のみに宿泊し、日帰りで北九州や下関を訪問するパターンが最も多い。

図表3-2(33) 福岡空港及び博多港入出国 主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン [回答数]
1	福岡都心部	53	39.3%	福岡都心部—北九州—下関[13] (24.5%) 福岡都心部—太宰府—北九州—下関[9] (17.0%) 福岡都心部—北九州[6] (11.3%)
2	福岡都心部・北九州	21	15.6%	福岡都心部—北九州—下関[10] (47.6%) 福岡都心部—北九州[4] (19.0%) 福岡都心部—太宰府—北九州—下関[2] (9.5%) 福岡都心部—北九州—由布院[2] (9.5%)
3	福岡都心部・由布院	13	9.6%	福岡都心部—北九州—由布院[5] (38.5%) 福岡都心部—北九州—下関—由布院[3] (23.1%) 福岡都心部—北九州—下関—由布院—熊本県[2] (15.4%)
4	北九州	10	7.4%	福岡都心部—北九州—下関[7] (70.0%)
5	下関	9	6.7%	福岡都心部—北九州—下関[6] (66.7%) 福岡都心部—下関[2] (22.2%)
6	福岡都心部・別府	5	3.7%	福岡都心部—北九州—下関—別府[3] (60.0%)
7	福岡都心部・北九州・由布院	4	3.0%	福岡都心部—北九州—下関—由布院[4] (100.0%)

n=135 (宿泊地の記載があるもの)

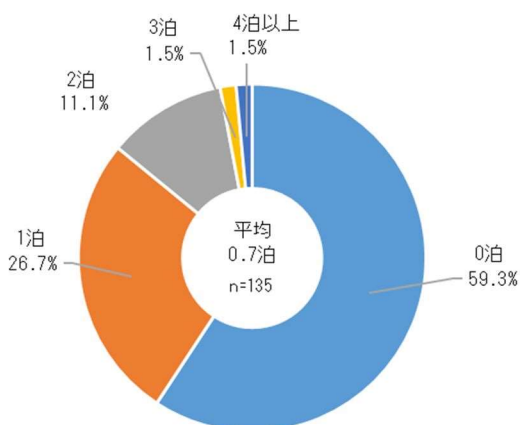
訪問パターンから宿泊パターン見ても、訪問地の上位のパターンについては、福岡都心部のみの宿泊が上位を占めており、福岡空港・博多港入出国の際には、福岡都心部に宿泊し、北九州・下関を日帰りで訪れているパターンが多いことがわかる。

図表3-2(34) 福岡空港及び博多港入出国 主な訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比	宿泊パターン [回答数]
1	福岡都心部—北九州—下関	39	28.9%	福岡都心部[13] (33.3%) 福岡都心部・北九州[10] (25.6%) 北九州[7] (17.9%) 下関[6] (15.4%)
2	福岡都心部—太宰府—北九州—下関	12	8.9%	福岡都心部[9] (75.0%) 福岡都心部・北九州[2] (16.7%)
3	福岡都心部—北九州	11	8.1%	福岡都心部[6] (54.5%) 福岡都心部・北九州[4] (36.4%)
4	福岡都心部—北九州—下関—由布院	9	6.7%	福岡都心部・北九州・由布院[4] (44.4%) 福岡都心部・由布院[3] (33.3%) 福岡都心部[2] (22.2%)
5	福岡都心部—北九州—由布院	8	5.9%	福岡都心部・由布院[5] (62.5%) 福岡都心部・北九州[2] (25.0%) 福岡都心部[1] (12.5%)

n=135 (宿泊地の記載があるもの)

北九州市・下関市での宿泊数を見ると、0泊が60%近くあり、平均宿泊数は平均0.7泊と短い。



図表3-2(35) 北九州市・下関市内の宿泊数の割合 (福岡空港・博多港入出国)

b) 北九州空港入出国

宿泊パターンを見ると、北九州市に宿泊するパターンが7割を超え、その中において、北九州市と下関を訪れるパターンと北九州のみを訪れるパターンで8割を超える。

図表3-2(36) 北九州空港入出国 主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン [回答数]
1	北九州	190	72.5%	北九州—下関[124] (65.3%) 北九州[38] (20.0%) 福岡都心部—北九州—下関[12] (6.3%)
2	北九州・別府	13	5.0%	福岡都心部—北九州—別府[5] (38.5%) 北九州—別府[3] (23.1%)
3	福岡都心部・北九州	10	3.8%	福岡都心部—北九州—下関[3] (30.0%) 福岡都心部—太宰府—北九州[2] (20.0%)
4	北九州・下関	8	3.1%	北九州—下関[8] (100.0%)
5	北九州・由布院	7	2.7%	北九州—由布院[4] (57.1%) 北九州—下関—由布院[3] (42.9%)
6	下関	6	2.3%	北九州—下関[5] (83.3%) 下関[1] (16.7%)
7	福岡都心部	3	1.1%	福岡都心部—北九州[2] (66.7%)
8	由布院	3	1.1%	北九州—由布院[2] (66.7%)
9	福岡都心部・北九州・別府	3	1.1%	福岡都心部—北九州—下関—別府[2] (66.7%)

n=262 (宿泊地の記載があるもの)

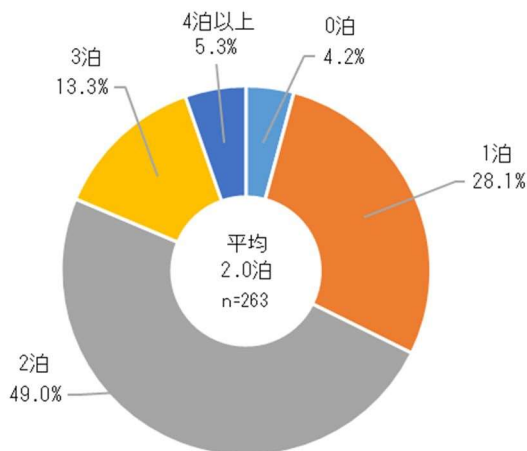
訪問パターンから宿泊パターンを見ても、訪問地上位のパターンについては、北九州市のみの宿泊が多い。

図表3-2(37) 北九州空港入出国 主な訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比	宿泊パターン [回答数]
1	北九州—下関	138	52.7%	北九州[124] (89.9%) 北九州・下関[8] (5.8%) 下関[5] (3.6%)
2	北九州	38	14.5%	北九州[38] (100.0%)
3	福岡都心部—北九州—下関	17	6.9%	北九州[12] (70.6%) 福岡都心部・北九州[3] (17.6%)
4	福岡都心部—北九州	5	1.9%	福岡都心部[2] (40.0%) 北九州[2] (40.0%) 福岡都心部・北九州[1] (20.0%)
4	北九州—下関—別府	5	1.9%	北九州・別府[5] (100.0%)

n=262 (宿泊地の記載があるもの)

北九州市・下関市での宿泊は、2泊が最も多く約半数を占め、平均宿泊数は2.0泊で、福岡空港・博多港入国の場合よりも長い。



図表 3-2 (38) 北九州市・下関市内の宿泊数 (北九州空港入出国)

c) 下関港入出国

宿泊パターンを見ると、下関市か北九州市に宿泊するパターンがほとんどで、下関市に宿泊するパターンが7割を超えている。下関市に宿泊する場合は、北九州市と下関市を訪問するパターンが6割以上であった。

図表 3-2 (39) 下関港入出国 宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン [回答数]
1	下関	27	73.0%	北九州ー下関[25] (92.6%) 下関[1] (3.7%) 北九州ー下関ー長崎[1] (3.7%)
2	北九州	9	24.3%	北九州ー下関[8] (88.9%) 太宰府ー北九州ー下関[1] (11.1%)

n=37 (宿泊地の記載があるもの)

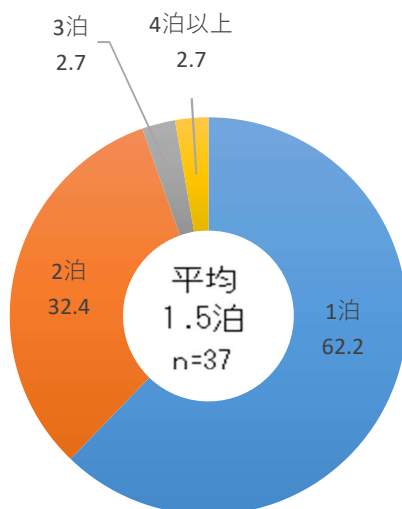
訪問地の組み合わせから宿泊地の組み合わせを見ても、下関市のみに宿泊するパターンが多い。

図表 3-2 (40) 下関港入出国 訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比	宿泊パターン [回答数]
1	北九州ー下関	34	91.9%	下関[25] (73.5%) 北九州[8] (23.5%)
2	下関	1	2.7%	下関[1] (100.0%)

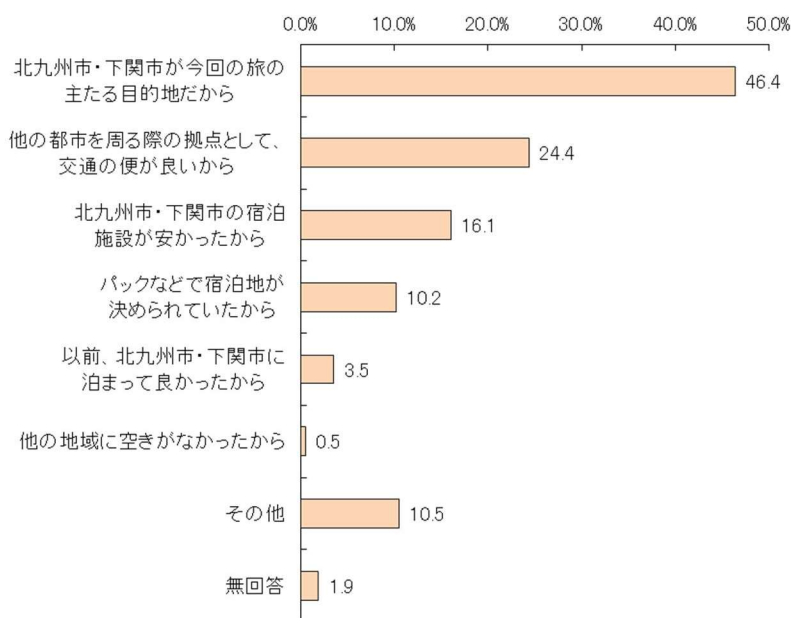
n=37 (宿泊地の記載があるもの)

北九州市・下関市での宿泊は1泊が最も多く6割%を超えており、平均宿泊数は1.5泊と、北九州空港入国の場合より若干短い、福岡空港入出国に比べると2倍の長さとなっている。



図表3-2 (41) 北九州市・下関市内の宿泊数 (下関港入出国)

北九州市・下関市で宿泊した理由は、「北九州市・下関市が今回の旅の主たる目的地だから」(46.4%)の割合が最も多く、次いで「他の都市を周る際の拠点として、交通の便が良いから」(24.4%)、「北九州市・下関市の宿泊施設が安かったから」(16.1%)と続いている。

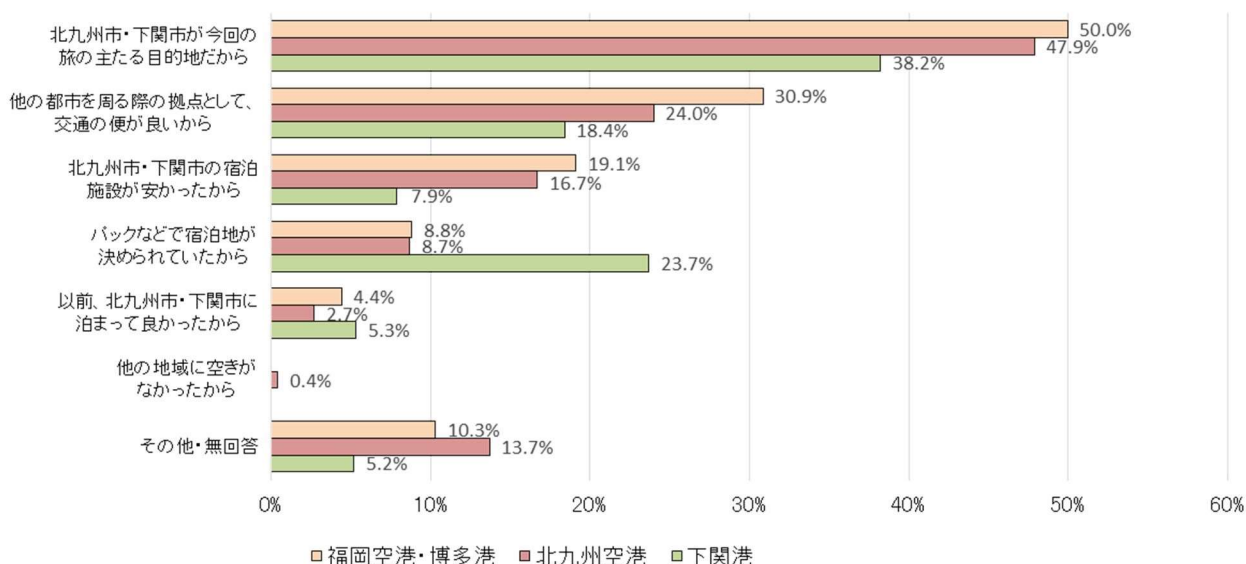


n=373 (北九州市・下関市での宿泊があるもの)

図表3-2 (42) 北九州市・下関市で宿泊した理由 ※複数回答

北九州市・下関市で宿泊した理由を入国先別に見てみると、「北九州市・下関市が今回の旅の主たる目的地だから」は、いずれの入国の際にも最も多く、主たる目的地であれば、「福岡空港・博多港」からの入国の際にも、北九州市・下関市に宿泊していることがわかった。

「福岡空港・博多港」からの入国の際には、「他の都市を周る際の拠点として、交通の便が良いから」の割合も高い。



図表 3-2 (43) 入国先別 北九州市・下関市で宿泊した理由 ※複数回答

3. 利用交通機関分析

北九州及び下関への流入出に利用される交通機関をみると、福岡都心部との移動は鉄道とバスが同程度の割合となっている。北九州と湯布院間の移動についてはバスが半数以上を占めている。

図表 3-2 (44) 北九州・下関流入出の利用交通機関

順位	流入出ルート	サンプル数	交通機関 [サンプル数]
1	福岡都心部⇔北九州	112	バス[37] (33.0%) JR 在来線・電車[36] (32.1%) レンタカー[21] (18.8%)
2	福岡都心部⇔下関	42	バス[16] (38.1%) JR 在来線・電車[14] (33.3%)
3	北九州⇔由布院	9	バス[5] (55.6%) レンタカー[3] (33.3%)

4. 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート

前項までの各種データ分析から、入出国港別に以下の主要ルートを想定した。

a) 福岡空港・博多港入出国

福岡都心部に宿泊し、北九州市・下関市内に日帰り（多くても1泊）のパターンの構成比が大きく、これを第1グループとし、次に比率が大きいグループを第2グループとする。

(1) 第1グループ

・福岡都心部－北九州－下関

アンケート調査で1位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせや入出国先別の宿泊数から、福岡都心部のみの宿泊パターンが多いことが分かる。福岡都心部・北九州の宿泊地の組み合わせでは、北九州・下関での宿泊は1泊程度となっている。

データのサンプル数や構成比などを踏まえて、これを第1グループと想定した。

各データの状況から、以下を第2グループと想定する。

(2) 第2グループ

・福岡都心部－太宰府－北九州－下関

アンケート調査で2位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い。

・福岡都心部－北九州

アンケート調査で3位、DiGJAPAN!では1位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い。

・福岡都心部－北九州－下関－由布院

アンケート調査では4位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、福岡都心部・北九州・由布院の3地域に宿泊するパターンが多い。

・福岡都心部－北九州－由布院

アンケート調査では5位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、福岡都心部・由布院に宿泊するパターンが6割を超えており、北九州は日帰りで訪問するパターンが多いと考えられる。



図表3-2(45) 福岡空港及び博多港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート図

図表3-2(46) 福岡空港及び博多港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート表

グループ	北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート	ルートの特徴
1	福岡都心部－北九州－下関	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多く、北九州・下関へは宿泊しても1泊のみ
2	福岡都心部－太宰府－北九州－下関	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
	福岡都心部－北九州	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
	福岡都心部－北九州－下関－由布院	福岡都心部・由布院・北九州鶴の3地域に宿泊するパターンが多い
	福岡都心部－北九州－由布院	福岡都心部と由布院に宿泊し、北九州は日帰りするパターンが多い

b) 北九州空港入出国

北九州市・下関市を周遊し北九州市に宿泊するパターンが9割で、これを第1グループとし、それ以外で北九州市に宿泊するパターンが多いものを第2グループとする。

(1) 第1グループ

・北九州ー下関

アンケート調査で1位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、北九州のみに宿泊するパターンが9割程度となっている。

(2) 第2グループ

・北九州

アンケート調査で2位であり、北九州に宿泊し、北九州のみを周遊するパターンである。

・北九州ー福岡都心部ー下関

アンケート調査で3位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、北九州のみに宿泊するパターンが7割近くある。

(3) 第3グループ

・北九州ー福岡都心部

アンケート調査で4位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、半数程度は北九州のみに宿泊するパターンとなっている。

・北九州ー下関ー別府

アンケート調査で5位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊地の組み合わせで、北九州と別府に宿泊するパターンとなっている。



図表3-2 (47) 北九州空港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート図

図表3-2(48) 北九州空港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート表

グループ	北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート	ルートの特徴
1	北九州-下関	北九州のみに宿泊するパターンが多い
2	北九州	北九州に宿泊し、北九州内のみを周遊するパターン
	北九州-福岡都心部-下関	北九州のみに宿泊するパターンが多い
3	北九州-福岡都心部	北九州のみに宿泊するパターンが多い
	北九州-下関-別府	北九州と別府に宿泊するパターンが多い

c) 下関港入出国

北九州市・下関市を周遊し下関に宿泊するパターンが9割を占めており、これを第1グループとし、下関市のみ訪問・宿泊するものを第2グループとする。

(1) 第1グループ

・下関-北九州

アンケート調査で1位であり、宿泊については、アンケート調査の宿泊パターンで、9割以上が下関にのみ宿泊するパターンであった。

(2) 第2グループ

・下関

アンケート調査で2位となっている。



図表3-2(49) 下関港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート図

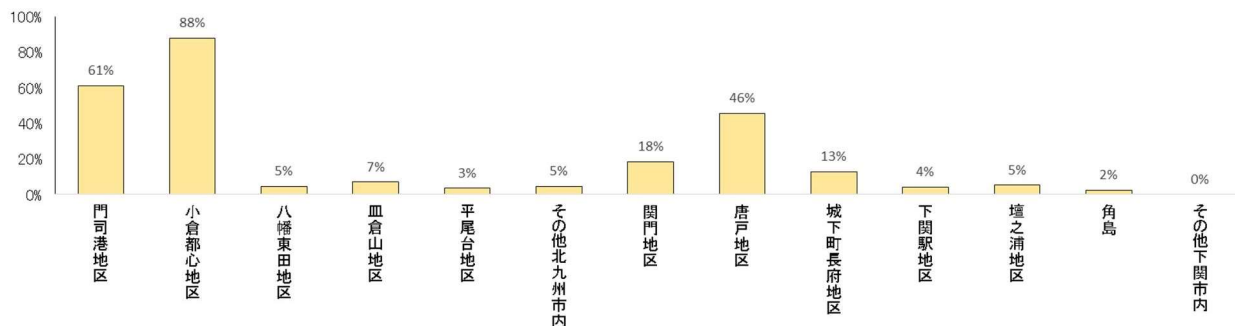
図表3-2(50) 下関港入出国 北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート表

グループ	北九州市・下関市を訪れた観光客の主要ルート	ルートの概要
1	下関-北九州	下関市のみに宿泊するパターンが多い
2	下関	下関市内のみを周遊するパターン

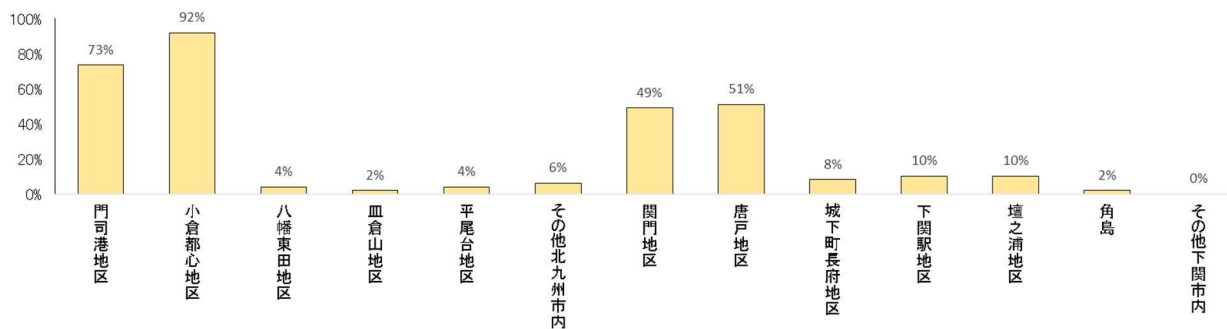
第3節 北九州市・下関市内の訪問地

1. アンケートによる訪問地分析

北九州市・下関市内の訪問地については、北九州空港調査、福岡空港調査のいずれにおいても、門司港地区、小倉都心地区、唐戸地区の訪問率が高い。



図表 3-3 (51) 北九州市・下関市内の訪問地（北九州空港調査分） ※複数回答



図表 3-3 (52) 北九州市・下関市内の訪問地（福岡空港調査分） ※複数回答

2. アンケートによる利用交通機関分析

北九州市・下関市内の移動に用いた交通機関は、「バス」(67.3%)の割合が最も多く、次いで「JR 在来線」(51.0%)、「船」(18.5%)、「レンタカー」(11.3%)と続いている。

図表3-2(53) 北九州市・下関市内の移動に用いた交通機関 ※複数回答

交通機関	回答数	構成比
JR 新幹線	36	7.1%
JR 在来線	257	51.0%
モノレール	23	4.6%
バス	339	67.3%
タクシー・ハイヤー	41	8.1%
レンタカー	57	11.3%
自家用車、社用・公用車	12	2.4%
船	93	18.5%
その他	50	9.9%
無回答	47	9.3%

n=504

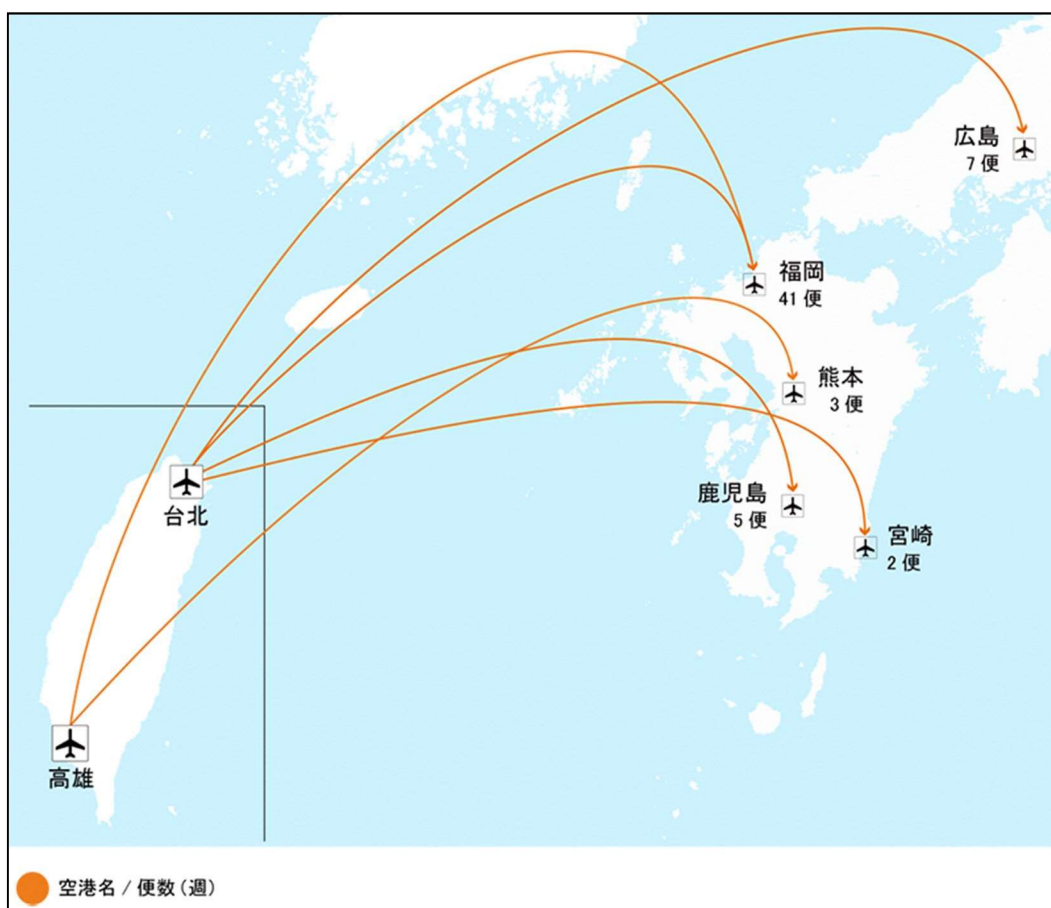
第4部 調査分析結果【台湾編】

第1章 入出国の状況

第1節 就航状況

福岡空港と台湾は3社により週41便（台北33便、高雄8便）の定期便で結ばれている。九州と瀬戸内地域で見ると、5つの空港に台湾との直行便があるが、特に熊本が台北ではなく高雄との間に直行便があること、平成16年に定期便化した広島－台北便が平成18年にデイリー化したことは、台湾と九州・瀬戸内地域の距離の縮まりを表しているといえよう。

平成30年10月に就航が予定されている北九州－台北便、福岡－台北便により、より一層台湾からの誘客と周遊コースの広がりが期待できる。



図表4—1 (1) 台湾と定期航路のある九州及び瀬戸内の空港

図表4—1（2） 台湾と国際定期航路のある九州及び瀬戸内の空港別就航先一覧

平成30年2月1日時点（2月タイムテーブルを基準に作成）

【福岡空港】

*はLCC

路線名	便数/週	航空会社	備考	
福岡 - 台北	33	16	チャイナエアライン	
		10	エバー航空	
		7	タイガーエア台湾*	平成28年1月就航
		(Vエア)	(平成28年9月休止)	
福岡 - 高雄	8	5	エバー航空	平成27年3月就航
		3	タイガーエア台湾*	平成29年12月就航

【熊本空港】

熊本 - 高雄	3	チャイナエアライン	平成27年10月就航
---------	---	-----------	------------

【宮崎空港】

宮崎 - 台北	2	チャイナエアライン	
---------	---	-----------	--

【鹿児島空港】

鹿児島 - 台北	5	チャイナエアライン	
----------	---	-----------	--

【広島空港】

広島 - 台北	7	チャイナエアライン	平成16年定期便就航 平成18年デイリー化
---------	---	-----------	--------------------------

(参考)

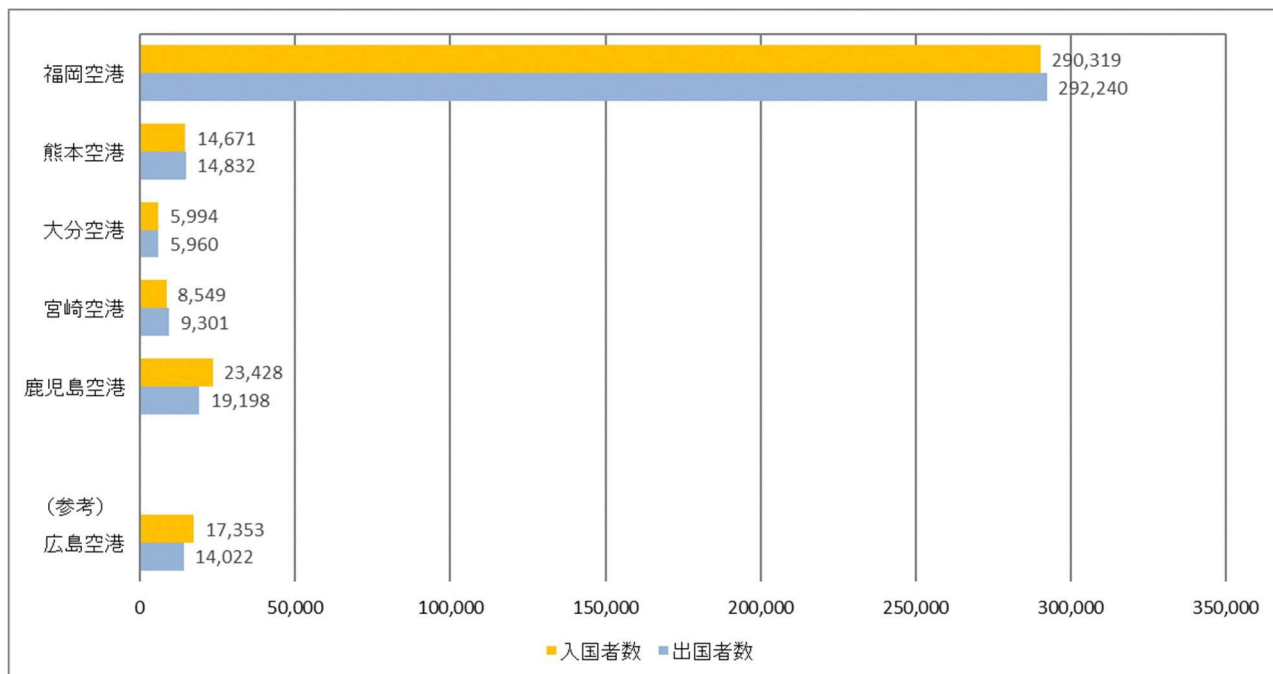
福岡 - 台北	-	スターフライヤー	※平成30年10月就航予定
北九州 - 台北	-	スターフライヤー	

第2節 空港別入出国の状況

台湾から九州各地への直行便は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島への4空港に就航している。九州への入国者総数は約36万人であり、そのうち8割以上が、3社がデイリーで直行便を運行している福岡空港を利用している。



図表4-1(3) 台湾と定期航路のある九州及び瀬戸内の空港別入国者数



単位：人

出典：法務省「出入国管理統計年報（2017年）」を加工して作成

図表4-1(4) 九州及び瀬戸内の空港別入出国者数

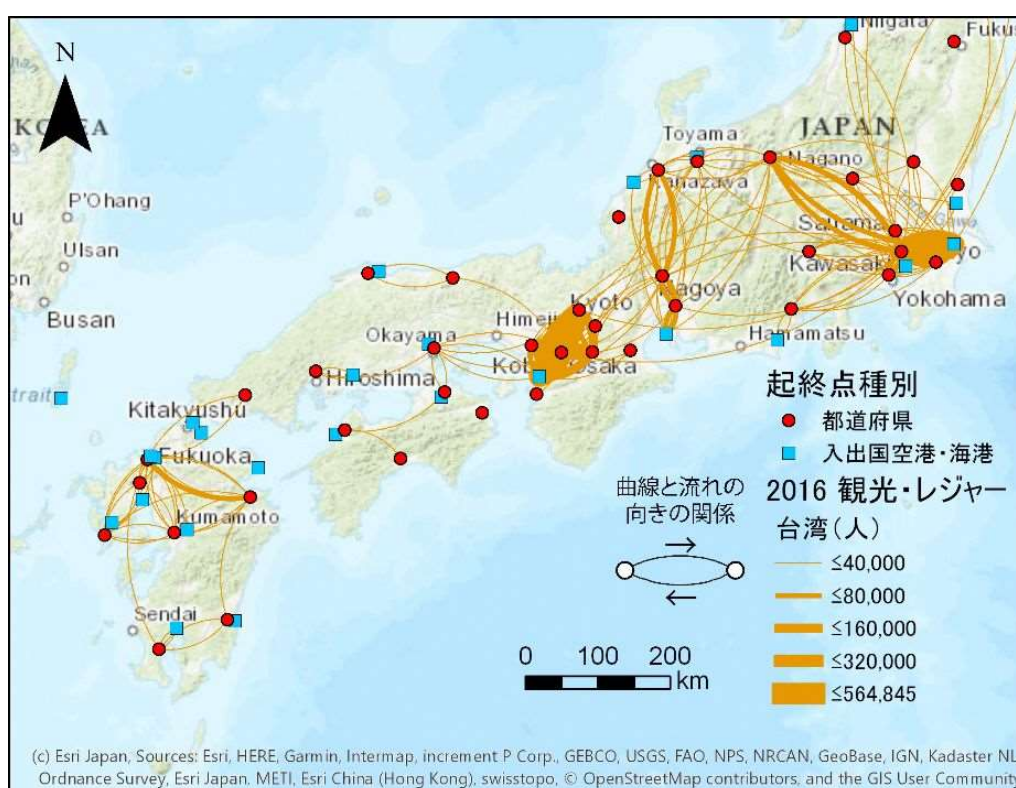
第2章 行動パターン分析

第1節 九州を訪れた観光客の主要ルート

1. 各種データによるルート分析

(1) FF-Data

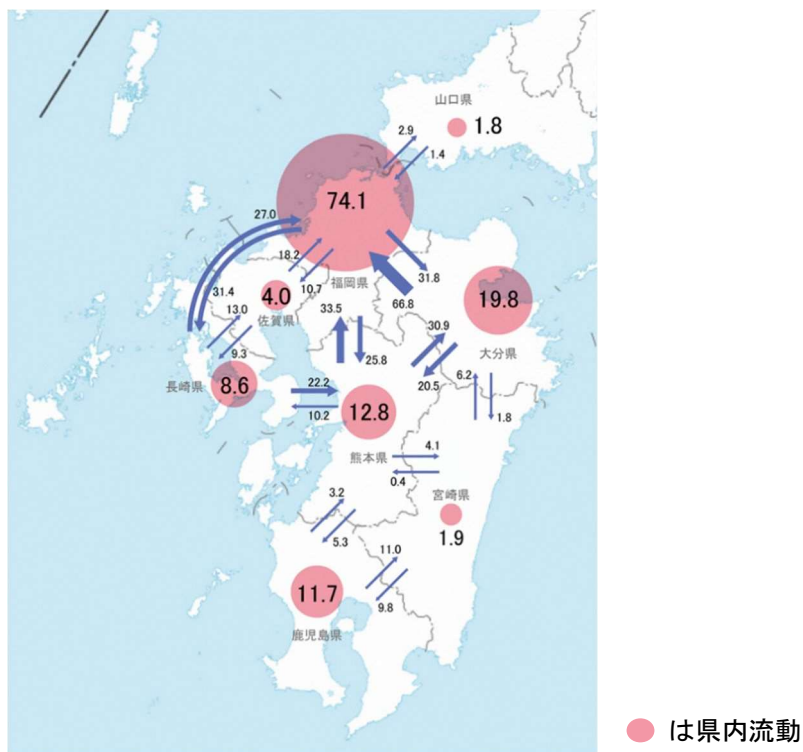
台湾人観光客の2県間での動きを全国的に見ると、まず関東・関西それぞれのエリア内の流動が顕著である。更に関東-東北、関東-中部、関東-甲信越、関西-山陰、関西-中国といったゴールデンルート以外の地域への動きが広がっている。また、愛知県-岐阜県、石川県でも比較的大きな流動があるが、これは昇龍道ルートとも重なっている。



図表4-2 (1) 平成28年都道府県間流動図

九州内で県間の流動に着目すると、福岡県内での完結が最多で、大分県および熊本県から福岡県へのルートが次点であった。

鹿児島県では、台湾との直行便があるためか、県内で完結する動きもあるが、他の直行便就航地（福岡、宮崎）との間の動きもみられる。このことから、直行便がある地域間では入国・出国を別にした周遊コースがあると思われる。なお、空港所在県間の動き以外には、九州北部と南部の動きはあまりみられず、最大の入出国地である福岡県を中心とした九州北部エリア内での動きに留まっている。

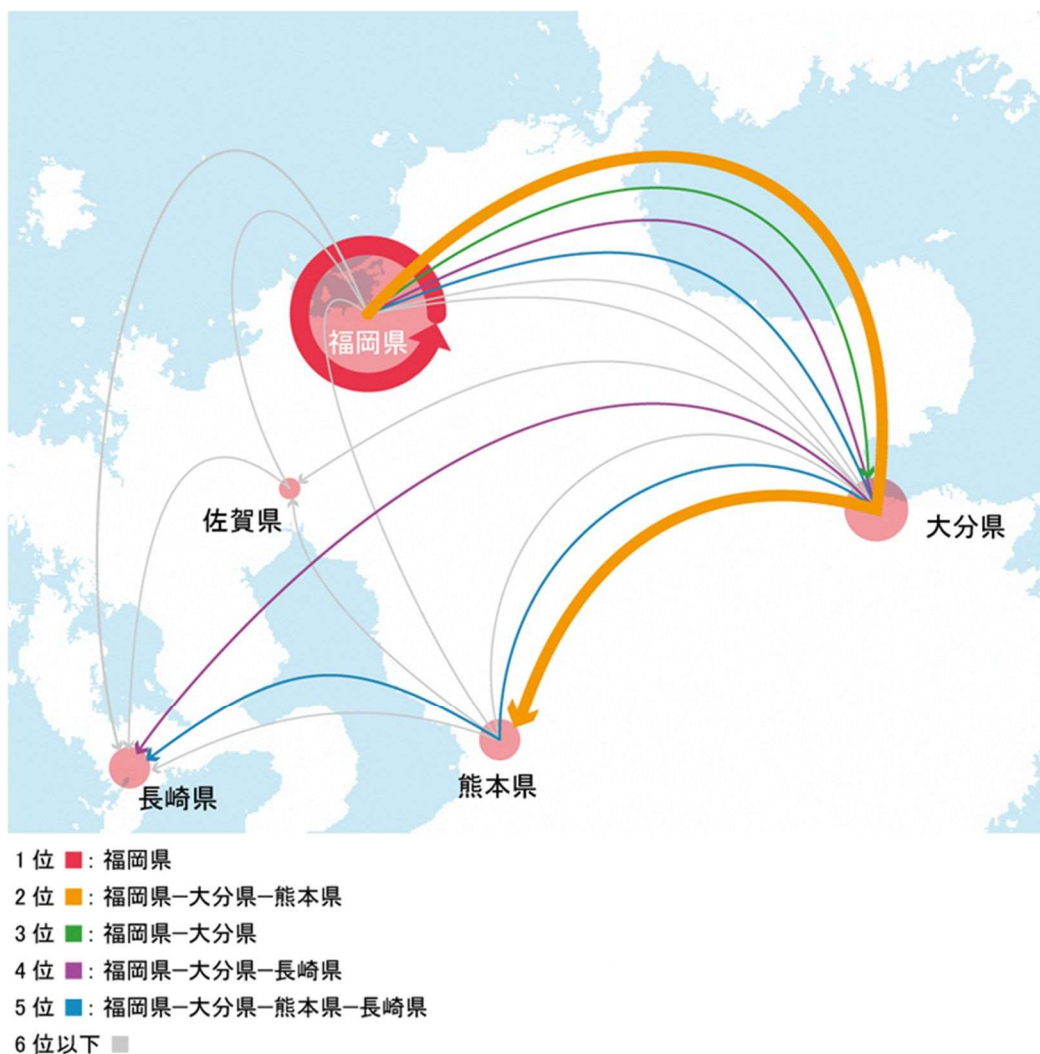


図表4—2（2） 平成28年県間流動図

図表4—2（3） 平成28年県間流動表

順位	出発地	目的地	流動量
1	福岡県	福岡県	74.1
2	大分県	福岡県	66.8
3	熊本県	福岡県	33.5
4	福岡県	大分県	31.8
5	福岡県	長崎県	31.4
6	熊本県	大分県	30.9
7	長崎県	福岡県	27.0
8	福岡県	熊本県	25.8
9	長崎県	熊本県	22.2
10	大分県	熊本県	20.5
11	大分県	大分県	19.8
12	佐賀県	福岡県	18.2
13	長崎県	大分県	16.5
14	長崎県	佐賀県	13.0
15	熊本県	熊本県	12.8

単位：千人/年



図表4—2（4） 福岡空港出国者訪問パターン図

図表4—2（5） 福岡空港出国者訪問パターン表

順位	訪問地パターン	サンプル数	構成比
1	福岡県	109	28.9%
2	福岡県—大分県—熊本県	44	11.7%
3	福岡県—大分県	26	6.9%
4	福岡県—大分県—長崎県	25	6.6%
5	福岡県—大分県—熊本県—長崎県	24	6.4%
6	福岡県—長崎県	20	5.3%
7	福岡県—佐賀県—長崎県	15	4.0%
8	福岡県—熊本県—長崎県	14	3.7%
9	福岡県—大分県—熊本県—佐賀県	11	2.9%
10	福岡県—大分県—佐賀県	9	2.4%

n=377

(2) モバイル空間統計

発地・着地の両方で最も多いのは、福岡都心部だった。発地・着地それぞれ太宰府、大分県、北九州の順で並んでいる。福岡都心部を拠点に、太宰府、大分県、北九州の観光地を訪問している傾向がわかる。

図表4-2(6) 発着地別流動量

発地 \ 着地	福岡都心部	太宰府	柳川	北九州	下関	大分県	熊本県	佐賀県	長崎県	宮崎県	鹿児島県	発地合計
福岡都心部	2,661	653	1,046	56	2,410	782	68	1,185				8,861
太宰府	3,971		285									4,256
柳川	586	711					409					1,706
北九州	1,368	262			134							1,764
下関				187								187
大分県	2,340						34					2,374
熊本県	977		75			35					61	1,148
佐賀県	38											38
長崎県	1,180											1,180
宮崎県										270		270
鹿児島県												270
着地合計	10,460	3,634	1,013	1,233	190	2,445	1,225	68	1,185	270	61	21,784

単位：人



図表4-2(7) 訪問地2点間の流動図

さらに2点間流動において1位から6位までの発地も福岡都心部で、そこから近隣の観光地を周っていると思われる。

福岡都心部-太宰府と福岡都心部-大分県は、全体からすると5割を超えていることからこの2つが九州観光のメインルートであると推測する。

図表4—2（8） 訪問地2点間の流動表

順位	訪問地1	訪問地2	流動合計	構成比
1	福岡都心部	太宰府	6,632	30.4%
2	福岡都心部	大分県	4,750	21.8%
3	福岡都心部	北九州	2,414	11.1%
4	福岡都心部	長崎県	2,368	10.9%
5	福岡都心部	熊本県	1,759	8.1%
6	福岡都心部	柳川	1,239	5.7%
7	太宰府	柳川	996	4.6%
8	熊本県	柳川	484	2.2%
9	北九州	下関	321	1.5%
10	宮崎県	鹿児島県	270	1.2%
11	太宰府	北九州	262	1.2%
12	福岡都心部	佐賀県	106	0.5%
13	大分県	熊本県	69	0.3%

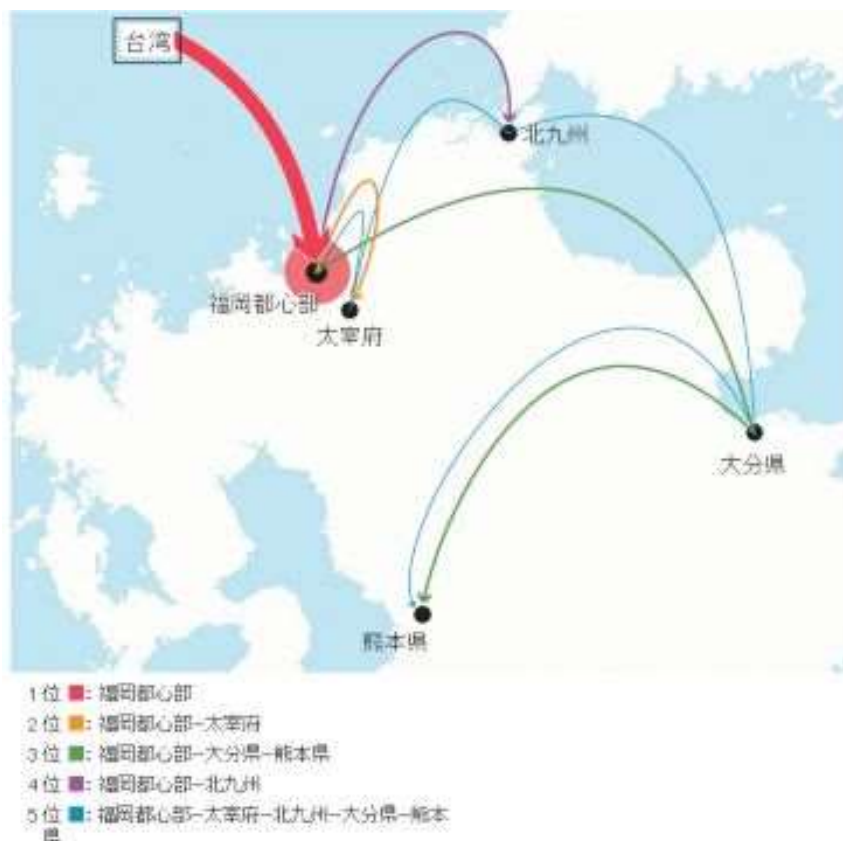
n=21,784 単位：人

※九州内での大きな動きを把握するため、以下の条件で2点間の流動を整理した。

- ①発着地を集約
- ②福岡県以外は観光地を県別を集約
- ③集約した結果、訪問地1と2が同一となるものは除く

(3) DiGJAPAN!

訪問地を見てみると、福岡都心部のみで完結するパターンが最多で、次点以降も福岡都心部を拠点としたパターンが続いている。しかし、次点と大きな差はない。上位10位までの11パターンのうち、8つが福岡都心部、太宰府、北九州、大分県、熊本県の組み合わせとなっている。



図表4-2(9) 訪問パターン図

図表4-2(10) 訪問パターン表

順位	訪問パターン	旅行数	構成比
1	福岡都心部	59	12%
2	福岡都心部-太宰府	20	4%
3	福岡都心部-大分県-熊本県	17	3%
3	福岡都心部-北九州	17	3%
5	福岡都心部-太宰府-北九州-大分県-熊本県	15	3%
6	福岡都心部-熊本県	13	3%
6	福岡都心部-北九州-大分県	13	3%
6	宮崎県-鹿児島県	13	3%
9	福岡都心部-長崎県	11	2%
10	福岡都心部-太宰府-長崎県	10	2%
10	福岡都心部-太宰府-大分県	10	2%

n=500

(4) アンケート調査（九州を訪れた台湾人観光客）

※北九州市・下関市に立ち寄っていない観光客について調査

最も多い訪問パターンは福岡都心部のみで完結する形だったが、2位以下と大きな差はなかった。以下、福岡都心部—大分県—熊本県が続き、韓国と同様、上位10位すべて九州北部のみで周遊している結果となった。特に福岡都心部から近い太宰府、由布院、別府がある大分県、熊本県が多頻度で上位に連なったことから、福岡都心部と太宰府・大分県、熊本県の組み合わせが主な訪問パターンと考えられる。台湾の訪問パターンの特徴として、3か所以上の観光地の組み合わせが多かった。



図表4-2(11) 訪問パターン図

図表4-2(12) 訪問パターン表

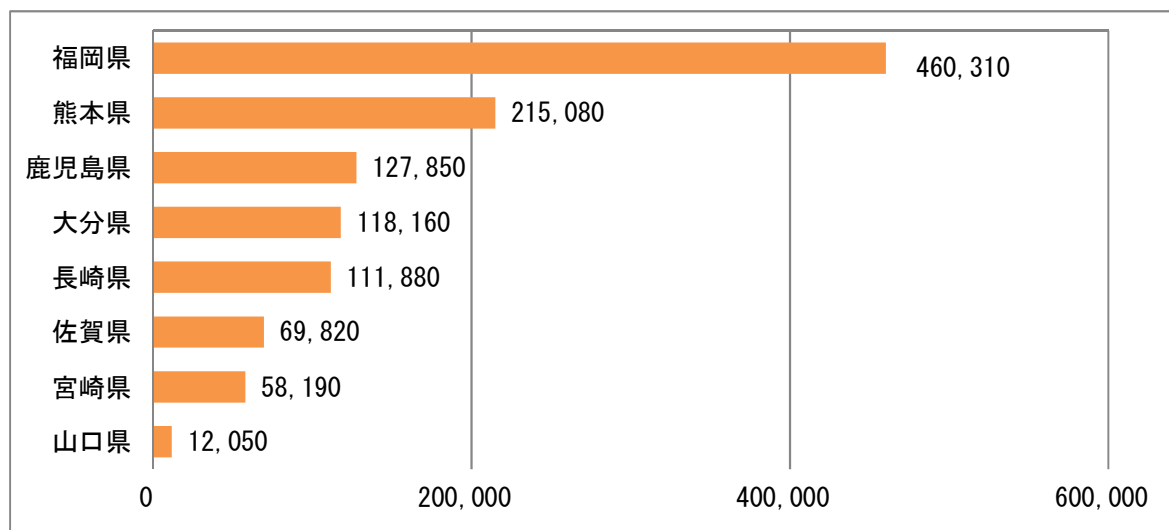
順位	訪問パターン	回答数	構成比
1	福岡都心部	22	10.9%
2	福岡都心部—大分県—熊本県	16	8.0%
3	福岡都心部—大分県	14	7.0%
4	福岡都心部—大分県—長崎県—熊本県	10	5.0%
4	福岡都心部—太宰府—大分県—熊本県	10	5.0%
6	福岡都心部—大分県—長崎県	7	3.5%
7	福岡都心部—太宰府—大分県	6	3.0%
8	福岡都心部—佐賀県	5	2.5%
8	福岡都心部—熊本県	5	2.5%
10	福岡都心部—長崎県—熊本県	4	2.0%
10	太宰府—大分県—熊本県	4	2.0%
10	福岡都心部—太宰府—大分県—長崎県	4	2.0%

n=201

2. 各種データによる宿泊分析

(1) 宿泊旅行統計調査

県別の宿泊者数では、福岡県が最も多く、熊本県、鹿児島県と続いている。いずれも直行便数が多い九州北部が福岡県、九州南部は鹿児島県の人気が高い。



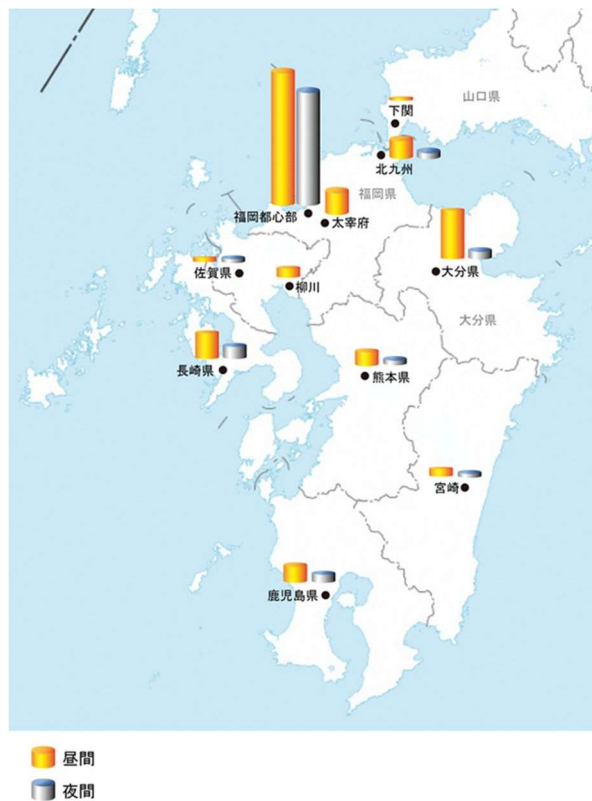
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査（平成29年）」を加工して作成

図表4—2（13） 県別宿泊者数

(2) モバイル空間統計

昼夜間人口ともに、福岡都心部の滞在者数が圧倒的に多く、訪問・宿泊ともに観光客が集中している。福岡都心部、長崎県、鹿児島県は昼夜間の差が小さいので、訪問・宿泊ともに同数程度あるといえる。佐賀県では夜間滞在者の方が多く、宿泊目的の観光客もいることがわかる。北九州、大分県、熊本県については、夜間滞在者も一定数あるものの、昼間の半数程度である。

一方で、太宰府、柳川、下関においては夜間滞在者がいないことから日帰りでの訪問地と思わせる。同様に、夜間滞在者が少なく昼間との差が大きい大分県も日帰り観光地であるといえよう。



観光地	昼間	夜間	昼/夜
福岡都心部	29,774	25,543	1.2
太宰府	6,257	0	-
柳川	2,538	0	-
北九州	4,696	2,343	2.0
下関	267	0	-
大分県	10,425	2,818	3.7
熊本県	3,538	1,657	2.1
佐賀県	610	845	0.7
長崎県	5,530	3,268	1.7
宮崎県	1,957	973	2.0
鹿児島県	3,909	2,671	1.5

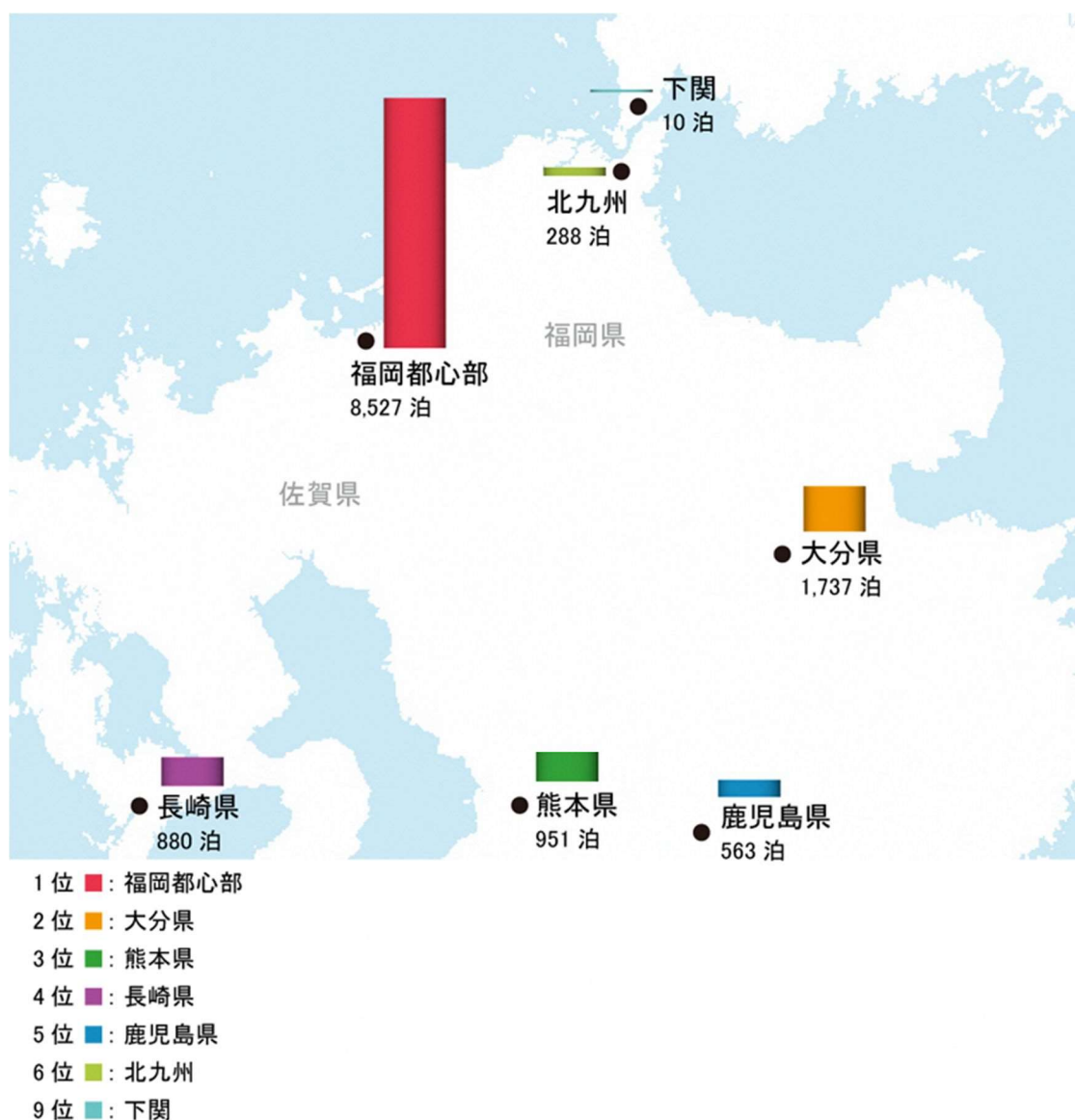
単位：人

図表4—2（14） 昼間・夜間の滞在者数

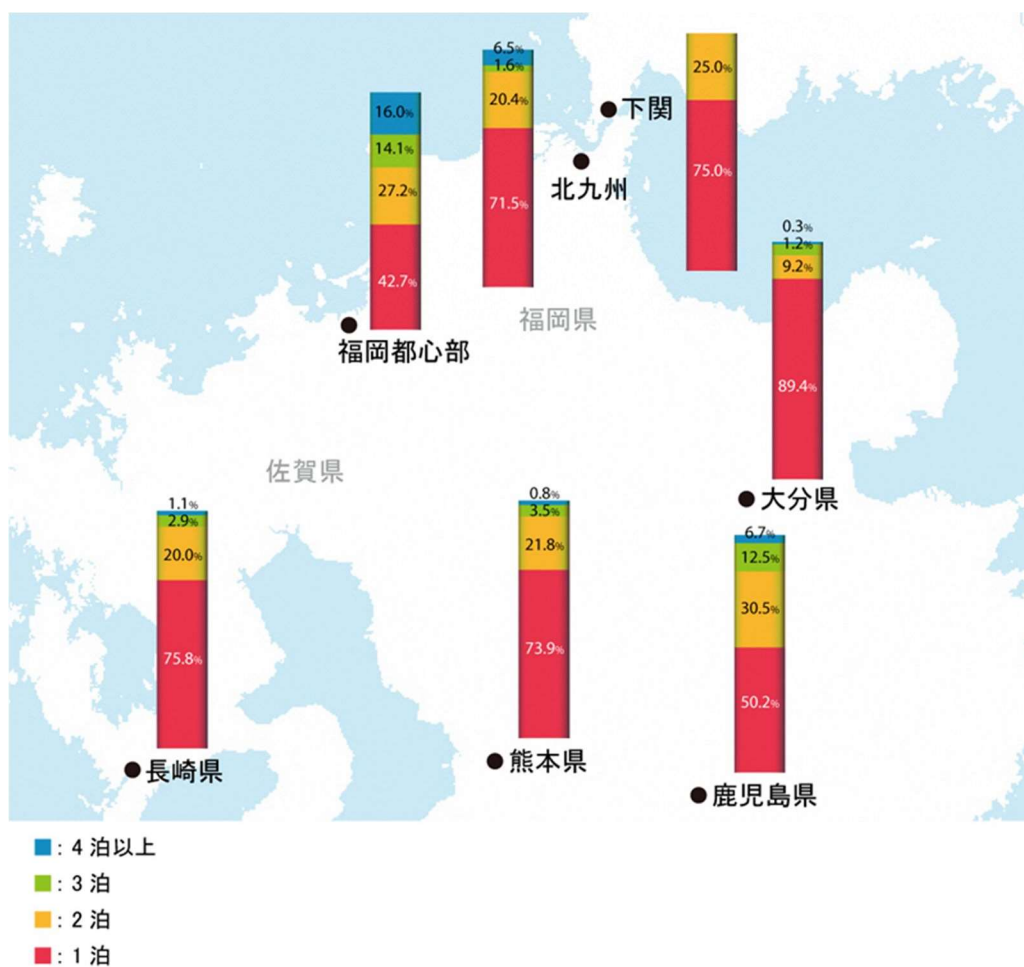
(3) Agoda 宿泊数データ

総宿泊数は、上位から福岡都心部、大分県、熊本県の順で多く、特に福岡都心部は総宿泊数の6割以上を占めている。福岡都心部は平均宿泊数についても2泊以上（他は全て2泊未満）である上に、1泊の割合が最も少ないことから、連泊が多いことがわかる。一方、次点の大分県は総宿泊数は多いが、1泊が89.4%で連泊が少ない。

また、鹿児島県の平均宿泊数は福岡都心部に次いで1.81泊、および1泊は約半数であることから、連泊の宿泊地として選ばれていると言えよう。



図表4—2 (15) 総宿泊数



図表 4—2 (16) 宿泊数の割合

図表 4—2 (17) 宿泊数

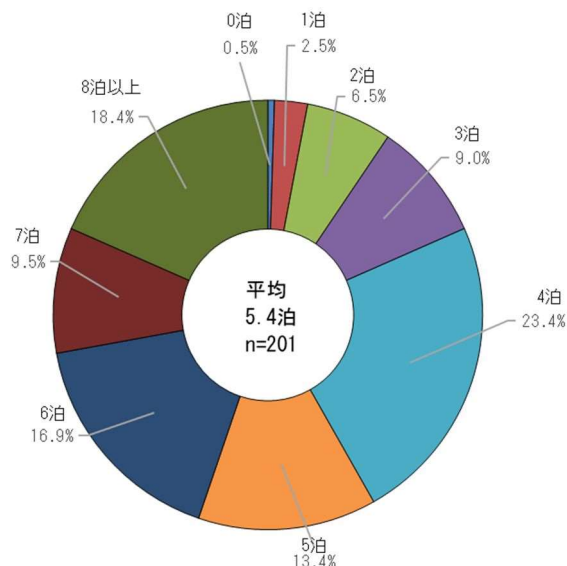
順位	観光地名	総宿泊数	構成比	平均	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊以上
1	福岡都心部	8,527	64.5%	2.14	42.7%	27.2%	14.1%	9.9%	3.8%	1.3%	0.7%	0.4%
2	大分県	1,737	13.1%	1.13	89.4%	9.2%	1.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
3	熊本県	951	7.2%	1.32	73.9%	21.8%	3.5%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
4	長崎県	880	6.7%	1.30	75.8%	20.0%	2.9%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
5	鹿児島県	563	4.3%	1.81	50.2%	30.5%	12.5%	4.2%	1.3%	0.3%	0.6%	0.3%
6	北九州	288	2.2%	1.55	71.5%	20.4%	1.6%	2.2%	2.2%	0.5%	1.1%	0.5%
7	宮崎県	149	1.1%	1.48	70.3%	19.8%	5.9%	2.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%
8	佐賀県	102	0.8%	1.21	84.5%	10.7%	3.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9	下関	10	0.1%	1.25	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	太宰府	2	0.0%	1.00	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11	柳川	2	0.0%	1.00	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

n=13,211 単位：泊

(4) アンケート調査（九州を訪れた台湾人観光客）

※北九州・下関に立ち寄っていない観光客について調査

九州内での宿泊では多い順番に4泊、6泊、5泊となっており、この4～6泊で53.7%を超える。また、7泊以上の宿泊も約3割であることから、長期滞在の傾向がうかがえる。



図表4-2(18) 宿泊数の割合と平均宿泊数

宿泊として最も多かったのは、福岡都心部のみで、全体の3割を占める。次いで、大分県、熊本県等の近隣の県での宿泊があがった。この上位3つのパターンで半数を超えている。

図表4-2(19) 主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	回答数	構成比	訪問パターン[回答数]
1	福岡都心部	61	30.8%	福岡都心部[22] (36.1%) 福岡都心部-太宰府-大分県-熊本県[7] (11.5%) 福岡都心部-大分県[3] (8.2%)
2	福岡都心部・大分県・熊本県	24	12.1%	福岡都心部-大分県-熊本県[16] (66.7%) 福岡都心部-大分県-熊本県-長崎県[2] (8.3%) 福岡都心部-太宰府-大分県-熊本県[2] (8.3%)
3	福岡都心部・大分県	23	11.6%	福岡都心部-大分県[11] (47.8%) 福岡都心部-太宰府-大分県[4] (17.4%) 福岡都心部-太宰府-大分県-長崎県[2] (8.3%)
4	福岡都心部・大分県・長崎県	9	4.5%	福岡都心部-大分県-長崎県[5] (55.6%)
5	福岡都心部・大分県・熊本県・長崎県	6	3.0%	福岡都心部-大分県-熊本県-長崎県[3] (50.0%)
6	福岡都心部・熊本県・長崎県	5	2.5%	福岡都心部-熊本県-長崎県[2] (40%)

n:198 (宿泊地の記載があるもの)

訪問パターンから宿泊地を見ると、基本的に訪問地にあわせて宿泊をしているが、太宰府を含んだ訪問パターンにおいては、太宰府での宿泊はなかった。太宰府は、福岡都心部から他県への周遊の際の立ち寄り観光地となっていることが推測できる。

図表4-2(20) 主な訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	回答数	構成比	宿泊パターン[回答数]
1	福岡都心部	22	11.1%	福岡都心部[22] (100%)
2	福岡都心部—大分県—熊本県	18	9.1%	福岡都心部・大分県・熊本県[16] (94.4%) 大分県・熊本県[1] (5.6%)
3	福岡都心部—大分県	15	7.6%	福岡都心部・大分県[11] (73.3%) 福岡都心部[3] (20.0%)
4	福岡都心部—太宰府—大分県—熊本県	14	7.0%	福岡都心部[7] (50.0%) 福岡都心部・大分県・熊本県[2] (14.3%)
5	福岡都心部—大分県—熊本県—長崎県	13	6.6%	福岡都心部[4] (30.8%) 福岡都心部・大分県・熊本県・長崎県[3] (23.1%) 福岡都心部・大分県・熊本県[2] (15.4%)
6	福岡都心部—太宰府—大分県—長崎県	7	3.5%	福岡都心部[3] (42.9%) 福岡都心部・大分県[2] (28.6%)
6	福岡都心部—大分県—長崎県	7	3.5%	福岡都心部・大分県・長崎県[5] (71.4%) 福岡都心部[2] (28.6%)

n=198 (宿泊地の記載があるもの)

(5) FF-Data

宿泊パターンから訪問パターンを見ると、福岡県宿泊者のうち1割程度は大分県、熊本県、長崎県を日帰りで訪問していることがわかった。

図表4-2 (21) 福岡空港出国者の主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	サンプル数	構成比	訪問パターン[サンプル数]
1	福岡県	157	40.8%	福岡県[107] (68.2%) 福岡県—大分県—長崎県[10] (6.4%) 福岡県—大分県—熊本県[8] (5.1%)
2	福岡県・大分県・熊本県	33	8.6%	福岡県—大分県—熊本県[32] (97.0%)
3	福岡県・大分県	23	6.0%	福岡県—大分県[19] (82.6%) 福岡県—大分県—熊本県[2] (8.7%)
4	福岡県・長崎県	20	5.2%	福岡県—長崎県[15] (75.0%) 福岡県—佐賀県—長崎県[2] (10.0%)
5	福岡県・大分県・長崎県	18	4.7%	福岡県—大分県—長崎県[14] (77.8%) 福岡県—大分県—熊本県—長崎県[2] (11.1%)
6	福岡県・熊本県・長崎県	16	4.2%	福岡県—熊本県—長崎県[13] (81.3%) 福岡県—大分県—熊本県—長崎県[2] (12.5%)
6	福岡県・大分県 ・熊本県・長崎県	16	4.2%	福岡県—大分県—熊本県—長崎県[14] (87.5%) 山口県—福岡県—大分県—熊本県—長崎県[2] (12.5%)
8	福岡県・佐賀県・長崎県	12	3.1%	福岡県—佐賀県—長崎県[11] (91.7%)
9	福岡県・大分県・熊本県 ・佐賀県	10	2.6%	福岡県—大分県—熊本県—佐賀県[9] (90.0%)
10	福岡県・大分県・佐賀県	9	2.3%	福岡県—大分県—佐賀県[8] (88.9%)

n=377

訪問パターンから宿泊パターンを見ると、訪問地と宿泊先が同じパターンとなっているケースが多いが、福岡県のみ宿泊する数も少なくない。福岡県を拠点に近隣を日帰りで楽しむ観光客が一定数いるといえる。

図表4-2 (22) 福岡空港出国者の主な訪問パターンから見る宿泊パターン

順位	訪問パターン	サンプル数	構成比	宿泊パターン[サンプル数]
1	福岡県	109	28.9%	福岡県[107] (100%)
2	福岡県—大分県—熊本県	44	11.7%	福岡県・大分県・熊本県[32] (72.7%) 福岡県[8] (18.2%)
3	福岡県—大分県	26	6.9%	福岡県・大分県[19] (73.1%) 福岡県[5] (19.2%)
4	福岡県—大分県—長崎県	25	6.6%	福岡県・大分県・長崎県[14] (56.0%) 福岡県[10] (40.0%)
5	福岡県—大分県—熊本県 —長崎県	24	6.4%	福岡県・大分県・熊本県・長崎県[14] (58.3%) 福岡県[5] (20.8%)
6	福岡県—長崎県	20	5.3%	福岡県・長崎県[15] (75.0%) 福岡県[4] (20.0%)
7	福岡県—佐賀県—長崎県	15	4.0%	福岡県・佐賀県・長崎県[11] (73.3%) 福岡県・長崎県[2] (13.3%)
8	福岡県—熊本県—長崎県	14	3.7%	福岡県・熊本県・長崎県[13] (92.9%)
9	福岡県—大分県—熊本県 —佐賀県	11	2.9%	福岡県・大分県・熊本県・佐賀県[9] (81.8%)
10	福岡県—大分県—佐賀県	9	2.4%	福岡県・大分県・佐賀県[8] (88.9%)

n=377

(6) DiGJAPAN!

福岡都心部のみの宿泊者が、福岡都心部のみを訪問している割合は26.1%であることから、福岡都心部に加え周辺を観光していることがわかる。宿泊地に比べ訪問地が多くなっていることから、周遊もしくは福岡都心部を拠点として日帰り観光が多数であると推測できる。

図表4—2 (23) 主な宿泊パターンから見る訪問パターン

順位	宿泊パターン	サンプル数	構成比	訪問パターン[サンプル数]
1	福岡都心部	226	45.2%	福岡都心部[59] (26.1%) 福岡都心部—太宰府[18] (8.0%) 福岡都心部—北九州[14] (6.2%)
2	福岡都心部・大分県	45	9.0%	福岡都心部—太宰府—北九州—大分県—熊本県[5] (11.1%) 福岡都市部—太宰府—柳川—北九州—大分県—熊本県[5] (11.1%) 福岡都心部—北九州—大分県[4] (8.9%) 福岡都心部—太宰府—大分県[4] (8.9%)
3	福岡都心部・長崎県	29	5.8%	福岡都心部—長崎県[4] (13.8%) 福岡都心部—太宰府—長崎県[4] (13.8%)
4	長崎県	24	4.8%	長崎県[7] (29.2%) 福岡都心部—太宰府—長崎県[3] (12.5%)
5	熊本県	21	4.2%	熊本県[7] (33.3%) 福岡都心部—熊本県[3] (14.3%)
5	福岡都心部・熊本県	21	4.2%	福岡都心部—熊本県[6] (28.6%)
7	鹿児島県	18	3.6%	宮崎県—鹿児島県[6] (33.3%) 鹿児島県[6] (33.3%)
8	福岡都心部・大分県・熊本県	12	2.4%	福岡都心部—大分県—熊本県[3] (25.0%) 福岡都心部—北九州—大分県—佐賀県—長崎県—熊本県[2] (16.7%)
9	福岡都心部・大分県・長崎県	10	2.0%	福岡都心部—太宰府—大分県—長崎県[2] (20.0%) 福岡都心部—太宰府—柳川—大分県—長崎県[2] (20.0%) 福岡都心部—北九州—大分県—長崎県[2] (20.0%)
10	大分県	8	1.6%	大分県[2] (25.0%)
10	北九州	8	1.6%	福岡都心部—北九州[3] (37.5%)
10	大分県・熊本県	8	1.6%	福岡都心部—大分県—熊本県[4] (50.0%)

n=500